

本物のローヤルゼリーは、驚きの力があります。

健康食品として歴史のあるローヤルゼリーも、有効成分の解明がすすみ、養蜂技術によって成分の多寡が違ふことが分かってきたのです。
 撮影：いのまた政明（人物）、小松隆一



「入退院を繰り返していた末期がんの父が、ローヤルゼリーで奇跡的に回復したんです」。以来43年、研究、実践に一筋。財団法人日本健康・栄養食品協会副理事長など、数多くの肩書を持つ。

健康や美容の効果を期待するなら、最高品質のものを選ぶことです。

山口喜久二さん

中国雲南省農業大学蜂学部博士指導教授

良質のたんぱく質や糖質、各種アミノ酸、ビタミン、ミネラルなどの多様な成分がバランスよく含まれ、健康と美容に役立つローヤルゼリー。自律神経を整えるアセチルコリンという成分が、更年期症状を和らげる効果が期待できるといふ点も、40代の女性にとっ

000もの卵を産み続け、生涯にわたって若さを失わない。女王バチの驚異の生命力の源であるローヤルゼリーは、医学的な養育作用についても研究され、抗腫瘍効果、血中コレステロール値を下げる効果、血圧降下作用など、数多くの発表が行われている。

「ローヤルゼリーには、驚くべき細胞の新陳代謝機能の改善効果があるんです。でも、その効果を享受したいなら、大切なのは品質。品質は、養蜂の仕方、ローヤルゼリーの採取方法で大きく変

わってしまいます。医療への応用の可能性も大いにありながら実現しないのは、まだローヤルゼリーに科学的根拠を持った明確な「標準品」の規定がなく、品質がバラバラだからなんです。ローヤルゼリーを正しく知って健康に役立ててほしい。ローヤルゼリーの研究に長く携わっている山口喜久二さんは、そう考えている。

女王バチの驚異の生命力は、「アピシン」という成分にあり。

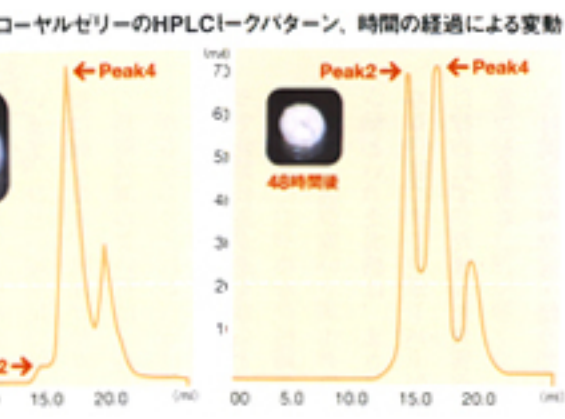
「ローヤルゼリーを食べた幼虫は、24時間で体が数倍になるという驚くべきスピードで、女王バチへ成長していきます。どの成分がそうさせているのか、この未知の成分は、「R物質」と呼ばれ、世界中で研究されてきました。少し前まではデセン酸という成分といわれていましたが、最新の研究ではアピシンという成分が女王バチの成長に大きく関与することがわかってきたんです」

アピシンは特殊なたんぱく質の一種。ローヤルゼリーに多く含まれることから、ミツバチの学名「アピス・メリファエラ」にちなんでアピシンと呼ばれる。

「アピシンが、女王バチの成育に関係

しているという仮説を証明するため、アピシンの含有量が500のローヤルゼリーと、1500のものを女王バチに与えた、北海道大学医学部・森山隆則教授のチームの研究があります。5日後の大きさを比較したところ、500のはうは育たず、1500のはうは大きく育ったんです」

自然の交配のみのハチを使い、ミツバチは余剰のある理想的なローテーションで働かせる。



「幼虫が成長する過程で、アピシンの量だけが著しく減少する、つまり幼虫がよく食べている、という研究データが得られたんです。ちなみに、デセン酸の量はほとんど変わりませんでした」

さらに採取のタイミングは、王台がほぼいっぱいになる約72時間後ではなく、有効成分が幼虫に奪われてしまう前の48時間後、効率を度外視した、品質主義の採取方法だ。

「採取したら、すぐに凍過、そして冷蔵保存。時間を置くと、ローヤルゼリーのたんぱく質が温度変化で変性してしまいます。本物のローヤルゼリーだけが持つ神秘のパワー。ぜひ、実感してみてください」

ミツバチの生態を大切に「山口式養蜂」が品質を高める。

「これらの研究結果から、アピシンの総量が多いことが、高品質の証しではないかと考えています。そこで、養蜂の一大産地である中国雲南省で採取したローヤルゼリーのサンプルを調べたところ、養蜂技術によってアピシンの量が違ふことがわかりました」

「アピシンが豊富に含まれていたのが、山口さんが自らの養蜂経験で確立した「山口式」だった。ミツバチの自然の生態や摂理を重んじた「天然型ローヤルゼリー」を作る養蜂技術だ。

「天然型ローヤルゼリー」だから、有効成分がたっぷり。

「薬剤汚染がなく、安全な水源のある、雑菌のない高地でのオーガニック養蜂であることが大前提。ポイントには、ハチの飼育と保管方法にあります」



中央・科学的に証明された天然型ローヤルゼリー「JRJ」スプリウムローヤルゼリー、2万6250円。左・アガリクスが配合の「JRJ」スプリウムローヤルゼリーAG、3万6750円。右・ピクノジェノールが配合の「JRJ」スプリウムローヤルゼリーピクノ、3万6750円。



見渡す限りに広がる菜の花畑と澄んだ空、きれいな水の雲南省門源。ミツバチの生態と摂理を大切にこのミツバチの家園から、安全で有効成分を豊富に含んだ最高品質のローヤルゼリーは生まれる。

ローヤルゼリーの成分は、こうして決まる。

ローヤルゼリーは、産地の環境、蜜源の種類、巣箱を置く場所、ミツバチの飼育方法、採取方法（時間、王台数、幼虫サイズなど）、凍過のタイミング、保管方法などによって品質が大きく変わってくる。アピシンなど有効成分が豊

- 1 中国の一般的な養蜂では、巣箱の70%が移動している。一方、山口式では移動する巣箱は25%ずつ。残りの75%は休ませ、ミツバチの働きを助ける。
- 2 人工交配では女王バチの産卵能力が落ち、同族交配では、体の小さい弱いハチになる。自然交配だからこそ、元気で健康なハチが生まれる。

- 3 飼化して2日目の幼虫を人工的に作った女王バチ専用の巣箱である人工王台に移す。この人工王台に、働きバチがローヤルゼリーをせっせと運ぶ。
- 4 人工王台のひとつひとつに、白く艶やかなローヤルゼリーが詰まっている。幼虫に有効成分を奪われない48時間後、山口式で採取。

- 5 王台から採取したローヤルゼリー、鮮度と活性を最高の状態にするためには、採取したその日のうちに凍過で、凍心分離機で凍過し、凍入物を除去。
- 6 ローヤルゼリーは生のまま空気中にも熱安定、放置すると変色したり、成分が壊れてしまう。品質を保つためには、凍入後すぐ2℃での冷蔵保存が必要。